

日中友好協会 八王子支部 ニュース



みんなで参加・多彩な活動! 掘げよう・大きな“わ”! 佐藤副支部長: FAX:042-645-8415

2024・3・31
聖蹟桜が丘

春は花見だ! 花はなくても観桜会!



キャッシュレス決済なのにはびっくりしたとのこと。多摩支部最高齢の後藤さんは昭和28年に満州から引き揚げてきたが1950年頃の中国の活気と情熱にあふれた様子が今も忘れられないと懐かしそうに語ってくれた。参加者一人ひとりが、日中との関わりや学生時代の事、近況などを話し、八王子支部の会長・奥田さんは、小道具は何もないと言いつつ、ティッシュペーパーを使って即席で手品を披露、拍手喝さいを浴びた。今年はギターの福島さんも二胡の松澤さんもないので、寂しいなと思っていたら、なんと五井さんがフルートで「さくらさくら」を演奏してくださった。太陽のもと、身も心も心地よく酔うことのできた楽しい一日だった。

初夏を思わせる好天に恵まれたが、桜はやっと開き始めたばかりで、ほとんど咲いてはいない。満蒙開拓団の碑173基に囲まれた拓魂公苑で、静かに手を合わせた。その後、桜が丘公園に移り、井上会長を含め多摩支部・八王子支部合わせて16人の参加者で観桜(?)の宴。

井上会長と両支部の最高齢90代のお二人



はじめに井上会長から、3月に訪中した北京の話をついた。コロナ前に行った時と街の様子に変わりはないが、現金では買い物一つできない

2024・3・10
アマダステーション

中国映画を見る会

黄色い大地

結婚式の場面から始まる。柱の陰からそっと見る女の子(翠巧)に祝福の気持ちは無い。1936年中国陝西省北部の貧しい村。結婚は売買婚で13・4歳の女の子が家のために嫁いでいく。「いずれ自分も」と考える翠巧。

この村に延安からは八路軍の若い兵士がやってくる。彼の任務は地方の民謡を集めること。それは党の方針で、それが人民を革命に導くという考えである。彼が翠巧の家に泊まることになるのだが、彼女の家は貧しく父親は大地にしがみつこうように畑を耕し、弟は羊の世話をし暮らす。翠巧の日課は5キロ離れた黄河の水くみ。若い兵士は「南の地は解放されている」「結婚は本人たちの気持ちを大事にする」と伝える。夢のような話を聞き翠巧は目を輝かし、淡い恋心が芽生えてくる。荒れた大地とその地で歌われる民謡が心に響く。

やがて兵士の帰る日がやってくる。兵士が去った後に歌われる歌がせつなく、黄色い大地に吸い込まれていく。そして翠巧の嫁ぐ日がやってくる。婚家から逃げ出した翠巧。弟が止めるのも聞かず、「延安に行く」と夜の黄河に船を出す。夢はかまようはずもなく……

今回も映画の後、参加者全員輪になって感想を述べあったり、質問しあったりする時間を持ちました。以前、中国のその地方で仕事をしていた方から、映画そのままの貧しい生活を聞いたり、映画の解説して下さった近藤先生から当時の状況をさらによくわしくお聞きし、映画の世界を深めることができました。(加藤)



毎日、ブログに『731からフクシマまで 細菌兵器から核戦略へ!!』をアップしています。

その中に、札幌の医学者から頂いた東京帝国大学伝染病研究所の戦前の会報『実験医学雑報』の記事を毎日少しずつ書き起こしています。先日1938(昭和13)年※の6月1日の記事を写していたら、こんなことが書いてありました。

「伝染病研究所記念日 6月1日は本所の記念日で、しかも今年は創立第40周年に当り、時節柄精神的緊張裡に午前11時より記念式が行われ(所長式辞前載)、正午から食堂で祝宴がはられた。尚午後1時から陸軍軍医学校教官石井大佐の厚意によって今次事変の戦場映画を映写し、一同戦地に於ける勇士の御苦勞を目の当たりに見て皇軍に対する感謝の念を一人深くした。」

前年の7月に盧溝橋事件があり、第2次上海事変、12月には当時中国の首都であった南京陥落、そして南京大虐殺がありました。

日中全面戦争の最中の昭和13年に、731部隊隊長の石井四郎の厚意によって、「戦場映画」を映写したというのです。どんな映画かよくわかりませんが、731部隊では上層部の部隊員が一室に集まり、戦場での細菌戦や生体解剖の様子を撮ったフィルムや展示品(人体標本等)を見る月例研究会が行われていたと、言われています。

石井は全国の大学などに働きかけて、731部隊に医学者が来るように勧誘していたとは聞いていましたが、実際にそのような記事に巡り合ったことは、驚きでした。

東大からも、731部隊に、何人かが派遣されています。その中に、731部隊にいた事を、心から反省して戦後は東大の職を辞して、医学関係の本を書いたり、翻訳したり、その後には、臨床検査技師養成の学校を作って、生計を立てた秋元寿恵夫がいます。



秋元寿恵夫

秋元が1944年、731部隊に臨時嘱託で入った時に、ハルビンの宿に歓迎の意を伝えるべく訪れた旧友の吉田源二陸軍技師のことを、次のように書いています。

『この吉田技師を旧友と呼ぶ所以は、かつて私が昭和4年4月、一高に再入学したときには同校の3年生であったばかりでなく、彼はその頃誰知らぬ者が

なかったほどの向陵(旧制一高の別称)切っつての名物男でもあったからである。だが、その彼にハルビンの宿で久し振りに再会した私が、何よりもまず衝撃を受けたのは「君が来てくれたのはうれしいが、それにしてもとんでもない所にやってきてしまったもんだなあ。君は知っていたのか、知らずにか」という彼からの質問がきっかけで始まった部隊の話であったが、それにもまして驚かされたのは彼の変わり果てた面影であった。

私の記憶の中で生きていた吉田の源さんは、豪放らいらくを絵に描いたような、典型的な一高健児であった。そして、数々の向陵物語でおなじみな記念祭とか、全寮茶話会とか、あるいは一高三高対抗野球戦とか、……必ずと言ってよいくらい高吟乱舞をほしひままにしていた彼の姿を見るたびに、私は「友の憂いに我は泣き、わが喜びに友は舞う」という寮歌の一部がそのままの形で演じられている感に迫られたものであった。それがどうであつたらう。ハルビンの宿で目前にした吉田技師は、相手をまともに見ることはせず、いつも伏し目勝ちで、話す言葉には弾みがないのでぼそぼそと聞きづらく、あまつさえその口許には薄ら笑いさえ浮かべていたのである。(中略)

……両肩をすぼめ、前かがみになって歩く彼の後ろ姿などは、……それやこれやが重なり合った彼の変わりよう、「これがあの源さんなのか」と、しばしば目を疑いたくなったほどのものであった。私はその後も、しばしば彼と話し合ったこともあり、それに間もなく彼が二木(ふたぎ)班でどのようなことをやっていたのかを知るに及んで、初めて全て残りくまなく解き明かされたのである。』

吉田の属した二木班(班長:二木秀雄)は、結核や性病の生体実験に関わっていました。また、生体実験される人をマルタと呼んでいましたが、その管理(健康診断)もしていました。

秋元は、血清班の班長になり、生体実験には関わりませんでした。が、部隊の内情を詳しく知ることとなり、特にロシア人の母と子の姿、マルタの幻影に苦しむこととなります。

秋元の恩師の緒方富雄や伝研所長だった田宮猛雄なども、嘱託として731部隊に協力していました。

(参照:秋元寿恵夫著『医の倫理を問う』)

※1938年当時の伝研所長は宮川米次です。



大軍の曹操軍は、陶謙と一戦も交えず、兗州に戻ったのである。

曹嵩が陶謙の配下によって殺害されたことはすぐさま曹操の耳に届いた。曹操は、いままでの親不孝を詫び、これから親孝行をしようと思っていたことがかえって仇となったことを悔やんだ。そして、私的な感情で兵を動かすことを諫めた臣下の言葉にも耳を傾けず、陶謙討伐の兵を起こした。曹操は、大軍を動員して兗州を発し徐州へ侵攻した。大旗には報讐雪恨と書かれていた。陶謙は、各地に援軍の要請を行った。公孫瓚のもとにいた劉備は、これを聞き、陶謙のもとに關羽・張飛らとともに駆け付けた。曹操は、徐州に着き、一気に城を落とさんと意気込んでいた。劉備は、私情により民を巻き込むことはないとい戦の勧告を行おうとした。張飛は劉備の使者として曹操のもとへ赴くのであった。ちょうどそのころ、主のいなくなった兗州では異変が起きていた。董卓を滅ぼしたものの長安の都に入れなかった呂布は、本拠地を探していた。呂布は曹操が徐州に攻め込み主のいなくなった兗州を次々と攻略していった。呂布は向かうところ敵なしであった。曹操は、陶謙や劉備にこの事態を察知される前に和平に応じることとしたのである。こうして、

けいたの話 ①① 修学旅行で沖縄に行ってきました 2. 沖縄の街について 松永健汰

今号は沖縄読物の第2回目となっております。ぜひ前号もお読み下さると嬉しいです。

沖縄へ赴いてはや2ヶ月が経とうとしていますが、私は今でも脳裏にハッキリとあの日の光景が蘇ります。しかし観光地ではなくて、専ら沖縄の街並みが印象強いのです。

沖縄の中心地といえば那覇市です。国際通りや市場本通りは人で溢れ賑わいを見せておりました。此处はテレビ等でもよく撮影されますので、沖縄へ行ったことが無い方でも想像が付くと思います。

私は恩納村に在るホテルに泊まっておりましたので、その道中でよく街を観察することができました。驚いたのは街行く人数の差です。那覇に比べて真逆と言える程に人が少なく、閑散とした景色が続いているのです。私の勝手な想像より遥かに長閑で、そして静かでした。

恩納村は国頭郡に属しており沖縄本島を二分すると北側に分類されますが、それでも郡内では南端に在り沖縄本島の凡そ中心に位置しています。海岸付近にはリゾートホテルが立ち並び、私の宿泊した部屋からも海が臨めましたが、これが絶景なのです。東京の海は紺色と言いますか、一寸先は闇のようですが、沖縄の海は青く透き通っていました。流石は珊瑚の海、圧巻です。

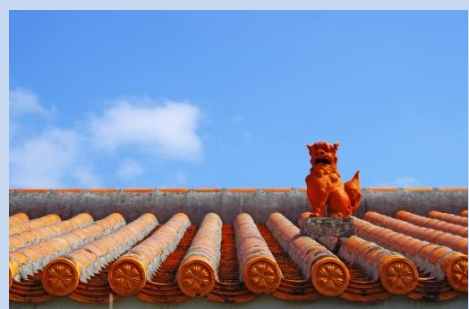
沖縄それから特筆しておきたいのが沖縄建築です。沖縄の伝統的な住宅では屋根が朱色がかっており、中には彼の有名なシーサーが乗っている民家もありました。こういう建物は意外にも各地で

散見でき、多いとは言えないものの少なからず残っているようです。

私はこの一連の経験の中で、東京より時間の流れがゆっくりであることを体感しました。人も街も温かく、趣があり、そして美しい自然があります。東京のような慌ただしさは生産に後押しされた、謂わば人間本来の時間速度では無いようにも思われました。

しかしその優しい空間を掻き乱すのもやはり生産で、米軍の存在です。沖縄県には在日米軍基地のうち凡そ70%が集中し、本島の約15%を米軍に占有されています。軍事は資本主義に於いて恰好の生産分野でありますから、沖縄はその材料に利用されている訳です。その害を被るのは県民であり、県民の繋いできた沖縄の文化です。

私の知った沖縄が何十年と先まで変わらず残り続けるには、破壊者である米軍の排外が必至なのは言うまでもなく、政府の推し進める軍拡に断固反対することが必要なのです。(高校二年生)



終わらせよう自民党政治

～およげたいやきくん～

♪どいつもこいつも裏金づくり
 金権腐敗で嫌になっちゃうよ
 東京地検も中途半端で
 アベ派幹部を見逃している
 国会で真相究明を
 裏金の使途を解明せよ
 企業・団体の献金を
 禁止しなくちゃもとを断でない
 財界のもうけ最優先
 自民党政治終わらせようよ

♪毎日毎日腹立つことばかり
 難破船だな自民党政治
 物価の高騰に無為無策で
 社会保障は削り続ける
 アメリカ言いなり大軍拡
 辺野古の新基地強行し
 憲法改悪しがみつき
 戦争する国突き進んでる
 国民的な大運動で
 自民党政治終わらせようよ

ジェンダー平等 人権の
 遅れの原因 自民党
 差別を続ける政治家を
 みんなの力で退場させよう

自民党政治終わらせる
 国民的な大運動で
 市民と野党の共闘再構築
 実らせ政権交代果たそうよ

《日中友好協会八王子支部日程》

- 4月21日(日) 10:00～支部理事会
- 5月26日(日) 10:00～支部理事会
13:30～中国からの引揚げ体験
- 6月日程未定 10:00～支部理事会
- 6月30日(日) 13:30～薬膳料理の会
- 7月14日(日) 10:00～支部理事会
13:30～日中戦争を考える

パレスチナに
平和を！

軍拡より
被災地支援を！

核兵器禁止条約に
日本も
参加しよう！

私達の命を
守ってきたのが
憲法9条！

全ての原発を
廃止！

裏金議員は
辞職して！

金権腐敗の
自民党 NO！

第 105 回

NO WAR！八王子アクション

4月14日(日)

14時～15時 JR八王子駅 北口 集会

聊聊天会(おしゃべり会)

中国からの引揚げを語ろう、聞こう

2024年5月26日(日)13:30～

アミダステーション1階

戦後78年たち、戦争の記憶が遠のいていきます。いまここで語らず、聞かずして、いつ聞けるだろう？

中島幼八さんの話を聞くとともに、自らの体験も語ろう、聞こう。

昭和17年、東京三田に生まれる。翌年、家族とともに中国東北部に渡る。戦後、中国養父母に育てられる。昭和33年7月、単身で舞鶴に帰還。横浜山手中華学校、夜間学校で学び、1966年日中友好協会本部に勤務。通訳に従事するほか、日中国交回復運動に身を投じる。

AALA、日中、日朝、国賠同盟共催

講演『パレスチナ問題の現状と背景』

講師 松井幸博東京 AALA 事務局長

日時 5月12日(日) 14:00～

会場 アミダステーション1階

参加費 コピー代300円

申し込み・連絡先 中道 042-664-5980

昨年10月に始まったハマスのイスラエルへの攻撃に端を発した戦争状態は半年を越えて継続しています。実態を学び、市民であるわたしたちができる行動を起こしましょう。

八王子支部ホームページ：<https://nittyuyukohachioji.web.fc2.com/>

日中友好新聞は、東北アジアの平和に役立つ確かな情報と中国の文化・歴史の豊かな情報を持つ、月2回発行のタブロイド判8Pの新聞です。嫌・反中報道が溢れる中、公正・中立な報道をしています。ぜひご購読下さい。

1ヶ月550円(送料込み)購読申込 042-645-8411:佐藤